

## 紅緡と青緡



紅緡（朱緡）4本 文銭（美銭）省百



五百文 青緡〈文銭・麻縄・省百 ※青く染めた麻縄緡で褒賞金として下げられたもの〉



三百文 青緡〈288枚=省百〉〈麻縄〉褒賞金

# 貨幣の道具類

(第1回)

## (1) 天秤

天秤は両替屋（現在の銀行）にとって最も重要な道具であり、特に江戸では両替屋の仲間株にとって、この天秤株の所有権を確保することが必要条件であった。また、大坂・京都においては秤量貨幣の銀目遣であったので両替屋以外の商家等でも重要な道具であった。

天秤は室町の頃に中国より渡来し、中国でも「テンピン」と発音されていた。我が国では「天秤針口」又は「針口」とも呼ばれ、江戸時代には主として丁銀・豆板銀を五拾目以上五百目迄の大量を掛け改めるのに用いたが、小判等少量秤としても使用された。

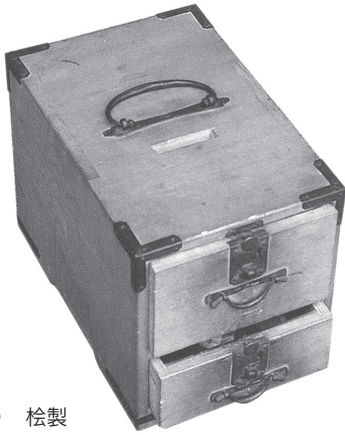
天秤を部分に分けて説明すると鳥居（口部分）、針口（口部分）、台の三つに分かれ、鳥居はさらに三本に分解し台の二段目の抽斗に、針口は同じく上段の抽斗に格納することが出来るようになっていた。又、鳥居の部分が一本足の珍しい古い時代の天秤もある。

天秤の使用で最も大切なものに分銅（写真D）があり、付属品には小槌（才槌）（写真C）が必要である。この小槌は針口の木瓜（針口の上部分）を叩き震動を調節して左右平均を計るためのものである。分銅は台の下段の抽斗に、小槌は鳥居と共に格納出来るようになっていた。

分銅は天秤のうち最も重要なもので、分銅座の後藤四郎兵衛家が代々



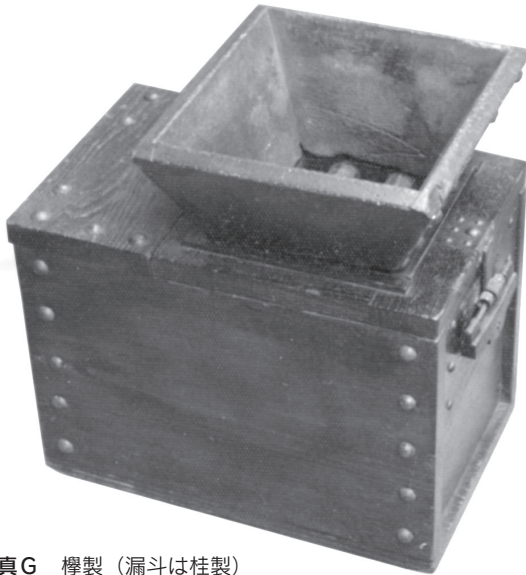
写真B 天秤（参拾両秤）  
分銅 19ヶ揃 分銅箱 取鉢3ヶ  
台の横・後の三方にお金の散逸を防ぐ囲いがある。  
（注）五拾両の分銅が抽斗に入らない。



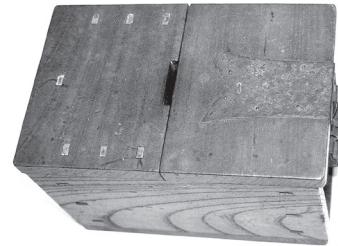
写真D 桧製  
長さ 25cm / 高さ 19cm / 幅 16.6cm  
上段の引出しのみ銭箱



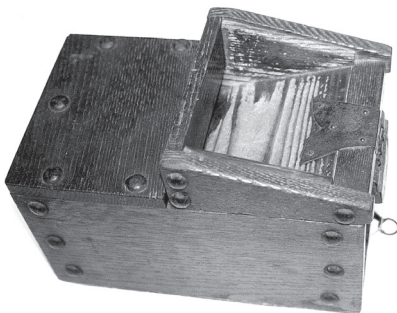
写真C 桧製 (引き出しは杉製)  
長さ 26.5cm / 高さ 26.5cm / 幅 26.5cm  
長さ・高さ・幅のサイズが同じサイコロ型の珍しいもの。天保銭が投入出来るように、あとから投入口の金具に溝をつけるという改良が施されている。古い時代のものである。



写真G 樺製 (漏斗は桂製)  
長さ 45.5cm / 高さ 33cm (箱のみ) / 幅 29cm  
大きな鉸が打たれ頑丈に作られた大型の銭箱。  
漏斗と箱の間には手を入れられないよう二本の  
棧が仕込まれている。



写真E 樺製 (超小型)  
長さ 20.5cm / 高さ 13cm / 幅 13cm



写真H 樺・桧製 投げ込み式、鉸打ち (小型)  
長さ 22.7cm / 高さ 16.2cm / 幅 13.5cm



写真F 桧製 (超小型)  
長さ 18cm / 高さ 11cm / 幅 12cm  
鉸が銅製。最も小型と思われる銭箱。  
鉸の金具が銅製で珍しい。



〈裏面に〉

安政二年卯  
新町六角下ル

菱屋

興八郎

中堀 (花押) (烙印)

写真K 金枡 (桧製)

〈仕切りは青銅製〉

長さ 27cm / 幅 12.3cm

タテ 10×ヨコ 8 = 80 枚

文政角一朱金用 5両計

写真M

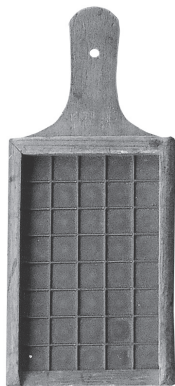
金枡 (桐製) 〈底は銅板製〉

長さ 20cm / 幅 8.5cm

タテ 8×ヨコ 5 = 40 枚

文政角一朱金用

2両二分 (2両半) 計



〈裏面に〉

志賀谷  
御用所

「志賀谷」は旧山東町志賀谷 (現、滋賀県米原市志賀谷) で、江戸時代は旗本水野美濃守正重の領地。「御用所」は公金を取扱う役所。

写真J 金枡 (桧製)

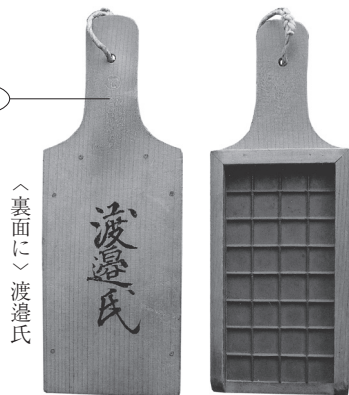
長さ 24.6cm / 幅 9.5cm / 厚さ 2cm

タテ 5×ヨコ 4 = 20 枚 一分銀用 5両計

烙印あり

㊦

江戸かやば丁  
くじらや傳右衛門 請合

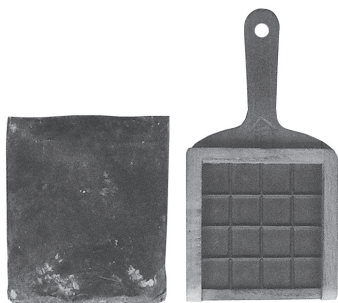


写真L 金枡 (桧製) 〈底は銅板製〉

長さ 19.5cm / 幅 7cm

タテ 8×ヨコ 4 = 32 枚

文政角一朱金用 2両計



写真O

金枡 (桐製) 〈底は銅板製〉

長さ 13.7cm / 幅 7cm

タテ 4×ヨコ 4 = 16 枚 文政角一朱金用 1両計

紙製柿渋塗りの保護箱付 (写真左)

〈裏面に〉  
「丸に立ち沢瀉」の図  
(水野家一族の家紋)  
辛天保二年  
〆枡の右側面に  
〆枡の左側面に  
卯二月吉日

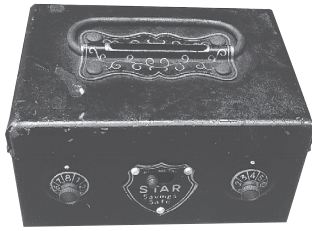


写真N 金枡 (桐製) 〈底は銅板製〉

長さ 10.4cm / 幅 8.5cm

タテ 4×ヨコ 4 = 16 枚 文政角一朱金用 1両計

大きき、枚数共に最小。



写真G 貯金箱（ブリキ製）  
高さ 5.5cm / 幅 10.8cm / 奥行 7.8cm  
前面左右に一文字（数字）合せの錠。

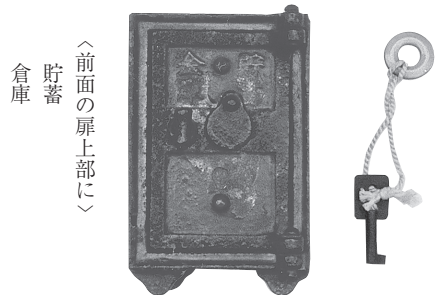


写真F 貯金箱（ブリキ製）  
高さ 7.5cm / 幅 15cm / 奥行 10.5cm  
中は桐製の蓋付の箱。  
前面左右に一文字（数字）合せの錠。



（背中に）  
京 東  
日直商會

写真I 貯金箱（鉄製）  
高さ 20cm / 幅（台座）15.5cm / 奥行（台座）13.7cm  
投入口は後の上部。硬貨の取出しは、ネジを外してから  
台座を外す。



（前面の扉上部に）  
倉庫 貯蓄

写真H 貯金箱（鉄製）  
高さ 10.5cm / 幅 6.5cm / 奥行 7.5cm  
カギ穴を隠せるようになっている。  
裏側に投入口。

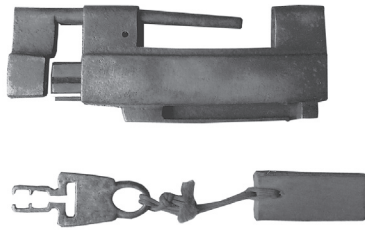


写真K 貯金箱（金属製）、大黒天  
高さ 16cm / 幅（下部）13cm / 奥行（下部）9.8cm  
投入口は袋部分後側の上部。取出し口は底部分。

（大黒の背中に）  
大黒天ハ貯ふる人の神なり



写真J 貯金箱（ブリキ製）  
戒（右）高さ 9cm / 幅 5.2cm / 奥行 5cm  
大黒（左）高さ 8.2cm / 幅 5.5cm / 奥行 5.5cm  
投入口は背中。取出し口は底部分。

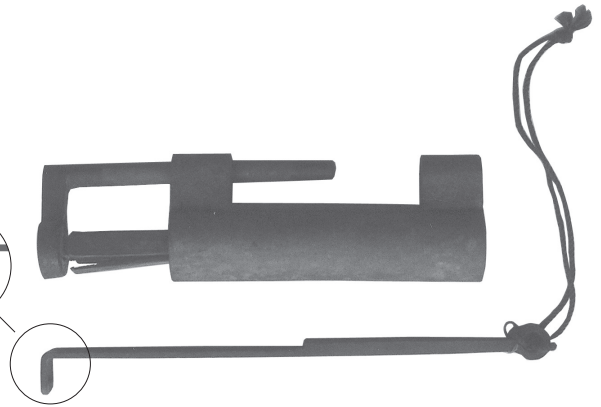


写真J 海老錠（鉄製）  
 高さ 5.2cm / 幅 10.7cm / 厚さ 1.4cm  
 鍵の長さ 6.2cm  
 鍵は棒状でなく「鍵口と鍵」の形が複雑。  
 錠の下部で開ける。

鍵口



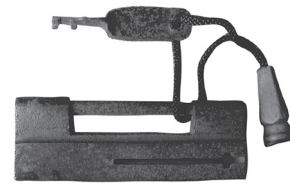
側面



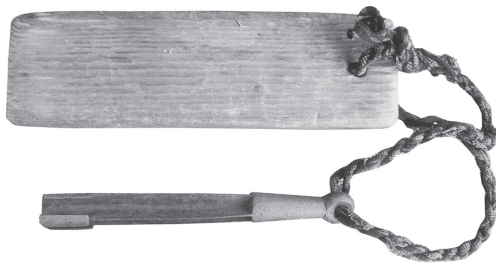
写真I 海老錠（鉄製）  
 高さ 6.5cm / 幅 15.5cm / 厚さ 3.6cm  
 鍵の長さ 25.7cm  
 錠の胴が丸型で珍しい。



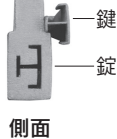
写真L 海老錠（鉄製）  
 高さ 3.4cm / 幅 9.6cm / 厚さ 1.5cm  
 鍵の長さ 9.7cm  
 鍵口は錠の下部。



写真K 海老錠（鉄製）  
 高さ 3.8cm / 幅 10.4cm / 厚さ 1.6cm  
 鍵の長さ 6.7cm  
 鍵は棒状でなく、鍵口は錠の前面右側。



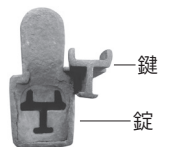
写真N 海老錠（鉄製）  
 高さ 6.1cm / 幅 14.9cm / 厚さ 2.1cm  
 鍵の長さ 15.7cm



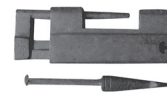
側面



写真M 海老錠（鉄製）、超大型  
 高さ 6.7cm / 幅 18.5cm / 厚さ 3.0cm  
 鍵の長さ 20.8cm



側面



写真O 海老錠（鉄製）、超小型  
 高さ 2.8cm / 幅 5.9cm / 厚さ 1.2cm  
 鍵の長さ 7.0cm



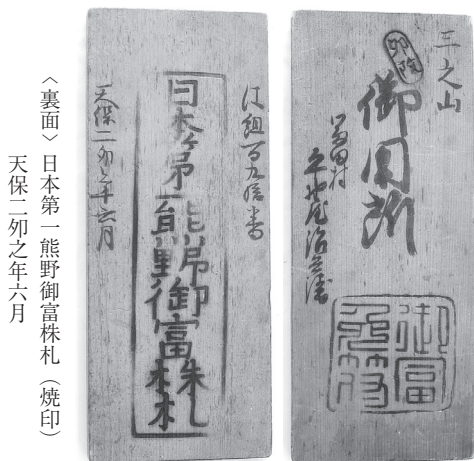
写真J 古金銀分析表（箱）、（檜製）〈銅製の鈺〉  
長さ34.5cm / 幅18.0cm / 厚さ3.3cm

〈裏面〉  
明治2年  
巳年  
〈横面〉  
吉店



写真I 〈右側〉金銀箱（桐製）坂口商店  
高さ16.1cm / 幅9.0cm / 厚さ2.2cm  
〈左側〉金札入（桐製）「吉田屋」印  
高さ15.0cm / 幅5.5cm / 厚さ2.5cm

〈裏面〉  
④



〈裏面〉日本第一熊野御富株札（焼印）  
天保二卯之年六月

〈表面〉  
三之山  
御用所  
富田村  
平野屋治兵衛

写真L 木札（檜製）  
高さ24.1cm / 幅9.8cm / 厚さ1.2cm



写真M 〈右側〉貯金箱（磁器製）福助（赤い羽織）  
高さ11.0cm / 幅14.5cm  
〈左側〉貯金箱（磁器製）蔵  
高さ8.7cm / 幅5.4cm / 奥行5.9cm



写真K 燈明懸銭箱（杉製）  
高さ45.5cm / 幅11.8cm / 奥行き6.5cm